

第 5 5 回  
東北地方交通審議会  
船員部会議事要録

平成 25 年 5 月 28 日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局



## 議 事 概 要

### ◎開 会

#### 【海事振興部次長】

〔第 55 回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

〔その他、前回に新聞情報関係で質問が出た「退職自衛官の雇用支援」「海洋共育センター」についての資料及び第 54 回の議事録（案）を配付。〕

### ◎議 事

#### （１）管内の雇用等の状況について

#### 【部会長】

それでは早速、議事に入りたいと思います。

お手元にある議事次第の議題（１）管内の雇用等の状況について、事務局から報告願います。

〔船員労政課長より資料 1～7 に基づき報告〕

#### 【部会長】

ありがとうございました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

#### 【高橋委員】

商船の求人について、「その他」が先月 8 で今月 13 ですが、どういうものが増えているのか教えて頂きたい。

#### 【船員労政課長】

新規 13 件の内訳は、警戒船が 2 名、清掃船が 1 名、タグボートが 10 名となっております。

#### 【高橋委員】

なぜかというのは、全国の求人を見ると減っていますね。東北で増えているので、もしかすると港湾関係の作業船関係で大分増えたのかなと、要は港のほうの整備が大分進んできたのかなと思ひ、聞いてみました。

#### 【船員労政課長】

この 10 件は、福島管内のタグボート系の会社から一度に 10 件出ています。

#### 【高橋委員】

分かりました。

#### 【部会長】

他に、いかがでしょうか。学校関係ということで。

#### 【清水委員】

広田水産は、一応まだ漁業関係の学科はあるのですよね。ただ、養成施設にはなっていないのでしょうか。

#### 【船員労政課長】

そうですね、基本的にいわゆる養成施設のデータをずっと拾ってきていますので、それを引き続きということですが。気仙沼向洋でも機械科が工業系の学科なのですが、ほとんど陸上のほうということで、養成施設にもなっていないので、その分は計上しておりません。

【村上委員】

商船の船種で「RORO」と書いてあるのは何ですか。

【鈴木委員】

ロールオン・ロールオフといって、直接トレーラーやトラックで乗り込んでの荷役をする船です。水平荷役方式というものがあります。

【高橋委員】

トラックの部分が外れる車（トレーラー）で船の中に運んで、荷物の部分だけをその船の中に置いてくると。

【船員労政課長】

普通は、クレーンで荷物を持ち上げ荷役をしますが、ロールオン・ロールオフというのは、ランプウェイというドアが下がって、そこから車が乗っていく。いわゆるトレーラーと一緒に行って荷物だけ置いて頭だけ出てくると。

【村上委員】

すると、クレーンが要らない訳ですね。

【船員労政課長】

そうですね、クレーンを使った荷役をしないで、自動車を使った荷役をするものです。

【高橋委員】

そのまま直接、物を運べるという利点もありますよね。

【清水委員】

カーフェリーの、お客さん乗せないような船と思って頂ければ。

【村上委員】

そうですね、はい。

【高橋委員】

この水産高校の卒業生の資料を見ると、平成17、18年度以降から増えてきていますね、19年くらいだとか。それ以前は、もう大分低いというか、就職では新規の人たちは少なかったのですがだんだん増えてきていますね。やはり、それだけ船員の魅力というか、運輸局のPRもいいのか分かりませんが、それなりにこの業界がPR活動をしている成果も出てきているのかなと見受けられますが、どうですか。ちょうどその頃から、いろいろ後継者の対策等々やり出したのではないですか。

【船員労政課長】

就職フェア関係はそうですね、もっと前からやっていますが。

【海事振興部次長】

就職セミナーもありますが、内航船員のために作った施策も19年度頃からいろいろできているので、その効果が出ているのかも。

【清水委員】

資料5にある「全国の求人・求職数」ですが、これで大体平成24年の2月ぐらいですか、漁船だと平成24年の1月、2月ぐらいから、やはり求人のほうが上回る状態になっていますね。

【船員労政課長】

そうですね。

【清水委員】

逆に言えば、船員不足がこの頃から出始めたと思っています。それで、貨物船系とか商船系統

で水産高校も貴重な人材源というような発言であればそれは納得しますが。

【高橋委員】

特に今年は、漁船に乗る方が多いですね。

【部会長】

組合側としては、嬉しいことなのですか。

【高橋委員】

そうですね。

【部会長】

学校卒業一括労働力市場が日本の労働力市場の特徴だから、通常出てくる求職・求人の有効云々というところも、こここのころのほう全体が全体の動向をはっきり表しているといえるのかもしれないですね。

通常の説明からいえば、2007年の夏辺りにアメリカの不動産業界がちょっと駄目になってきて2008年の3月に1回クラッシュして、2008年の9月にリーマンショックですね。ですから、その辺りから経済全体が下向きになっていくので、2009年、2010年ちょっと底になって、その後上向きになっていくというのが一般的な解釈ですよ。2011年の3.11があるのですが、それを除いて考えてみると、不況だからこれまで就職しなかった商船、漁船関係にも就職するようになったという、このような事がはっきりと見て取れて、世界の不況の動きの中で、ちょっと地位が上がってきたという、このように見えるのですけれども。23年度があるから、ちょっとよく分からなくなっている部分ありますが、全体的にはそういうような…。

組合員数はどうなのですか。

【高橋委員】

組合員数は、やはり団塊の世代の方々が占めている割合が多いので、新規に入ってくる人よりも、やはり退職される方のほうが多いです。

【部会長】

相殺されてしまっていると。

【高橋委員】

はい。やはり、組合も定年制がありますので、そこで組合から離れてしまって未組織のほうで働いている方も結構います。

【部会長】

分かりました。ありがとうございます。

ちょっとがっかりしていたよりは、ちょっと違う底の動きがあるのかなと思ひまして、今日は面白い数字を見せて頂きました。ありがとうございます。

他に何か、ございますでしょうか。よろしいですか。

では、なければご承認頂いたということで進めさせて頂きたいと思ひます。ありがとうございます。

(2) その他

【部会長】

続きまして、議題(2) その他ということで、前回の新聞情報関係について事務局から報告願ひます。

〔船員労政課長より「退職自衛官の雇用支援」「海洋共育センター」を資料に基づき報告〕

【部会長】

資料について、よろしいですか。

【清水委員】

正直、得体が知れないというか、ちょっと…。

【部会長】

これは、連絡先などは分かるのですか。

【船員労政課長】

今は、この1枚目にあります「共育センター設置準備委員会」というところがあるのですが、ここもまだいわゆるホームページは立ち上げておらず電話番号だけなので。中国運輸局に聞いてみたのですが、良い資料が無いということでした。

【部会長】

では、一般の人は調べる手だてはないと。この説明会に行くしかないということですか。

【海事振興部次長】

そうですね。

【船員労政課長】

まず、これはこの「共育センター」の立ち上げということで、参加する企業をまずは募集、そのための説明会を全国では西のほうだけで4か所ぐらいやるらしいのですが。その説明会が明日は広島であるということで、いわゆる一般の企業向けに参加をお願いしていると。そのような説明会のような感じです。

【部会長】

組合のほうで何か情報はあるのですか。

【高橋委員】

分かりません。何も聞いていません。

これは、行政も何も、全く民間の企業が設立するということなのですか。

【船員労政課長】

また詳しいものが入りましたら、部会に資料を出したいと思います。

【部会長】

これは、司法関係からいうと何か問題はあるのですか。

【村上委員】

いや、別にそういう意味での問題はないのでしょうか。要するに、私は派遣ではないかと思うのですけれども。

【部会長】

派遣会社。

【村上委員】

体裁は一応、共同のというようですが。実際は派遣会社ではないかと思うのですが、違うのですかね。

【船員労政課長】

基本的に、企業が採用した船員の教育訓練を自社だけでやるには、いわゆる零細のところではちょっと大変だということで、そういうグループを作ってみんなでうまくできるような体制にし

ましよう、というのが一つと。あとは、それによって零細企業も計画を理解して行って、経営の安定化に繋がるではないかという部分ですね。今のところ、その概要だけなので、個別の案件が見えた時に、いろいろな法令の縛りがあればそれはできる・できないというのは当然出てくると思いますが。

【清水委員】

少し前から、俗にいう「一杯船主」が船員をプール化しようということでグループ化になった話も聞こえていましたので、そちら絡んでいるかなと思ってみたりするのは。

【船員労政課長】

この資料の中では、いわゆる船員を一つにまとめて、うまくあちこちに供給という話にまではなっていないですね。最後の5番で船員派遣事業者云々もちょっと書いていますが。

【部会長】

プロモーターのところはちょっとよく分からないということで。村上委員の指摘は、下手をすると変なところに行ってしまう心配もあるかもしれないということですね。

私の経験から言えば、ずっと歴史を見てみても、こういうのは行政が絡んでいれば一定の公益的な機能は果たすのですが、民間だけでいくと、それはそれなりのものにしかならないということですね。だから、問題を起こさないようにじっと見ておいたほうがいいのかも思いますが、行政関係者は誰か見ているのでしょうか。

【海事振興部次長】

一応、社団法人にするためなのかなと思うので。そうであれば、ちゃんと縛りが付くと思いますので大丈夫だと思うのですが。

【部会長】

分かりました。こんな話が出ていることを確認できました。ありがとうございます。

よろしいですか。どうもありがとうございます。

【船員労政課長】

最後に、今年も「海技者セミナー in 仙台」を開催するというので、そちらのパンフレットです。今日、局長・次長に説明をして了解を取ったばかりなので、まだプレスリリースはしていないのですが、今週金曜日にプレスに出す予定となっております。募集開始を6月7日からしまして、その後企業が決まってから今度は参加者の募集をしまして、9月28日の土曜日にセミナーを開催するという予定であります。

【部会長】

ありがとうございます。何か、ご質問等ございますか。

【清水委員】

これについては、うちの学生課長も言っていると思いますが、9月の末だと正直遅いのです。7月ぐらいならまだですが、9月末だと来春の卒業予定者の半分はもう就職が大体決まっていますので、この「海技者セミナー」で成立ということを考えるのであれば、本当に7月頃にして頂かないと、と思います。

【部会長】

去年も同じ指摘があったと思いますが、行政のほうで全く受け入れていないという、これは行政の怠慢を批判されても仕方がない。

【船員労政課長】

こちらの都合で申し訳ないのですが、「海フェスタ」が今回は東北の男鹿市で開催ということ

で、そちらも海事振興部が全部背負ってしまっていて。ただ今、次長がそちらに掛かりきりで。

【海事振興部次長】

人手が足りず、段取りもありまして。

また、この「海技者セミナー」は全国の各ブロックで開催します。日程がかぶると船社が集まらないので、ある程度ばらけた時期にしなければならず、先行してやられると、そこがかぶってしまうと。そういう事もあり、少しずらしたり。去年とまた同じようなパターンなのですが。

【船員労政課長】

全国7か所で行っているのですが、大体うまくずらしていき、6月、7月というのが関東、神戸、九州ですね。

【海事振興部次長】

そのような事もありまして、要望は重々聞いているつもりなのですが、なかなか調整がうまくいかないというようなところもありまして。

【清水委員】

どうしても練習船の下船日に合わせてもらうというところで、6月10日と9月10日というのは狙われるのですけれども。

【船員労政課長】

そうですね、関東は6月10日で行っていますね。

【清水委員】

ちょうど海上技術短大の4月から乗った連中が6月10日に東京、横浜近辺で船を降りるので。

【船員労政課長】

関東のセミナーはそれに合わせてですかね。

【清水委員】

ええ、そういうのがセットになっている。それから、6月3日、神戸ですよ。そこも練習船が大体神戸にそこそこ集まるのでというような。「海技者セミナー」はほとんど、うちのほうの学校といいますか、その下船の日に合わせるようなスタイルの意向になってきていますので。

【部会長】

これは、意味がない。

【海事振興部次長】

いや、意味がないというか。

【清水委員】

結局、就職が決まった人間をここへ出す訳にはいかないのです。うちも全校参加で来るのですが、2年生で来春の卒業予定者でもまだ就職が決まっていない人間と、まだ入学したての1年生を連れてくるしか方法がないのですよね。就職が決まった人間を連れてきたら、やはり失礼です。だから、そういう意味で本当の効果があるというようなことを考えるのであれば、7月ぐらいにして頂ければ、この場で成立というような意味の、実績のあるようなスタイルにできるのかなと思うのですけれども。

【海事振興部次長】

毎年ですが、まず船会社の募集を掛けるのですが、もうほとんど関東・関西方面しかいないのですよね。先にそちらが決まってしまっているのです。それにかぶせるとこちらの参加がゼロになり開けないというのがあります。できれば地元の企業でということもあるのですが、なかなか新しく雇用というのが出てこないのです。そちらのほうの船社に頼らざるを得ないことになってしま



う。ちょっとやりづらい部分もあるのですがけれども、なんとか定例化してきているので、若干ぎりぎりの数は集まるのかなというような形でやっているのが現状なので。

**【船員労政課長】**

就職面接、あとは企業説明という意味もあるので。1年生の方々も、ちょっと話を聞いて頂ければと。

**【清水委員】**

しようがないと思っていますから。またかと思ったので。

**【部会長】**

こういう意見があったということを次年度に申し送りください。もしかすると、組み立てる時に何かちょっと知恵が出るかもしれません。また来年も同じような意見が出るかもしれませんので。よろしく願いいたします。

では、そういうことでよろしいでしょうか。どうもありがとうございます。では、意見交換ということで、いかがでしょうか。

**【高橋委員】**

明日なのですが、「我が国漁業の存続を求める全国漁業者代表者集会」が東京の日比谷公園の野外音楽堂で開催されます。これは、先月ですか、小型のイカ釣り船が2日間休漁しましたね。それに合わせての集会だと思うのですが。要は景気対策ということで、円安に振れたことによって燃料油価格が高騰し、漁業関係の操業をするのに余りに燃料が高いということで、その分、国のほうで何らかの対策をして頂きたいという主題の集会です。全国の漁業者代表者が2,500名ほど集まって1時間ほどの集会と、1時間ほどのデモ行進を行うという内容です。ちなみに、うちのほうからは30名ほど参加いたします。

もう一つ、石巻の水産高校で来月の18日に「地域連携会議設立準備会」というものが予定されているようです。水産高校の食料関係の学科が来年4月に1学科増えると。それに合わせての、要は加工関係の方々への技術者の提供のような感じになると思うのですが、そのために地域連携しての後継者対策の準備会だと思っております。これは18日にあり、私が出ますので次の船員部会にでも情報を提供したいと思っております。やはり後継者を作るには、そのような機関、地域が一体にならないと。技術者を作ったことは良いのですが、受け入れ体制がしっかりしないと、やはり人も育っていきませんし、産業としても成り立っていかないというのが一番だと思いますので。

**【部会長】**

よろしく願います。ボトムアップしていく状況ですので。他には、よろしいですか。

**【鈴木委員】**

この15頁の読売新聞の資料にもあるのですが、この13隻で集団操業をやっていた近海マグロ船が、昨年4月からちょうど1年が過ぎました。予定的な水揚げの金額は、1億6,000万から1億7,000万でしたが、1億2,000万から4,000万というのがほとんどの船だったそうです。それで、一番いい船で1億7,000万、そのボーダーラインに1隻だけいったみたいな船があるだけで、あとは全部下だと。その要因の一つがサメ。量的にはサメも震災前と同じぐらいの量は捕ったのですが値段が半分くらいにまで下がっているのが一番の要因だということです。

あと、今年はまだ2年目ということで新たに4隻増えて、今17隻で始まっています。

**【高橋委員】**

付け加えると、加工する業者の方がまだ復興されていないというのがあります。

【部会長】

水産加工業の方ですか。

【鈴木委員】

それと、やはり中国でも何かフカヒレをあまり食べなくなったみたいな話もちらほらと。

【部会長】

放射能で。

【鈴木委員】

はい。ホテル関係で出さなくなったということが結構あるみたいで。

【部会長】

では、使用者側のほうから、お願いします。

【佐藤委員】

昨年から懸案になっていました旅客船業界の原発風評被害の損害賠償について。最初は村上先生にいろいろ研修をお願いしてスタートしたのですが大変厳しく。去年の8月からか損害賠償紛争解決センターで指針が変わってきまして、東北の福島以外の5県にも認めるということで。私らの業界で今17社が申請しまして3億9,700万ぐらい、それで認定されたのが3億5,300万ぐらい大体88.9%の認定率ですが、ようやく十和田観光船なんかも資金繰りが少し良くなったという話を聞きました。

それから、私ら東北の旅客船というのは観光産業が多いので、今年のゴールデンウイークの人も今年の1年の評価される中で、天候に恵まれたのは南のほうが結構多かったのですが、やはり北のほうは桜が咲かないというので、角館、あるいは弘前の桜が遅れたということで70%台のお客様でした。ただ、やはり岩手県の三陸沿岸は「あまちゃん」効果といいますか、それで125%ぐらいです。また、福島地区もやはり「八重の桜」の影響があって130%を超える状況になっていました。業界全体とすれば、いいスタートだなと思っています。宮城県は気仙沼も7%ぐらいプラスになったし、松島湾だと120%ぐらいですから、幸先いいなと思っています。

【部会長】

昨年に比べて1.何倍というのは、それ以前の平年の状況から比べるとどうなのですか。

【佐藤委員】

震災前までにはまだ戻っていませんけれども。ただ、今日の新聞にも載っていますけれども、金華山航路も全国の支援によって浮棧橋が完成してようやく運航再開になった。けれども、まだまだ土日ぐらいしか運航できない状況で。やはり、そのように全体的に見ればまだ少ないようですけれども、少しずつ良い話が出てきているなと思っています。

【部会長】

良い情報でした。

もっと聞きたいところですけども、あとおられませんので次回にでも、もうちょっといろいろと聞いていければと思います。どうもありがとうございました。

【高橋委員】

今、震災のこの補償の話が出ましたが、宮城県の沖底の関係でも支給されています。

【部会長】

東電は大丈夫なのでしょうかね。

全体としては良い事なのでしょうけれども、変わらなければいけないこともあるのでしょう。その他に何かございますか。ありませんでしたら、今日はこれで終了ということでよろしいで

しょうか。また次回、よろしくお願いいたします。

◎閉 会